

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年11月18日

No.9

2021年度 年末手当妥結！！

基準内賃金×

1.67カ月で妥結！！

～2021年度 年末手当交渉最終報告～

2021年度年末手当交渉は10月20日の申し入れ以降、団体交渉を積み重ね、職場で奮闘する組合員と共に闘ってきました。8月中旬の豪雨災害による山陽線の不通と中央西線の不通時には、トラック代行や船舶代行輸送に尽力し、政府から新型コロナウイルス感染症拡大防止のための在宅勤務要請が出ている中でも、これまでと変わらず輸送の確保に最大限努めている組合員と、その家族の切実な想いに応えるため労使交渉を積み重ねてきました。そして本日21時30分より最終交渉に臨み、席上、会社は基準内賃金の1.67カ月分とする回答を示しました。

中央本部はこの間の交渉の中で、①事業計画策定時に高い収入計画を策定したのは会社であり、計画未達は組合員の責任ではない。②職場では慢性的な欠員状況の中で、通常以上の仕事を担っており、それが前年度をほぼ上回る業績に繋がっていること。③ガソリンや石油、食料品の高騰など生活が逼迫しており、年末手当で補わなければならない状況であること。④組合員が必死になって収入確保にむけて奮闘していることに対して、その労苦に報いるべきであることなどを訴えてきました。

これまでの交渉を踏まえた上で、①「昨年の年末手当をどこまで上回れるか」という曖昧な会社の姿勢を打ち破り、昨年の年末手当を超える回答を引き出したこと。②新型コロナウイルス感染予防対策を、会社として最大限実施すること。③職場の老朽設備や女性設備を早急に整備すること。④要員問題は系統を問わず充実しておらず、会社は責任を持って要員を整える。あわせて教育・技術継承の推進を加味した体制に努める。運転士養成は手厚く対応することを確認したことから、中央本部は今年末手当について、これ以上の前進はないと判断し妥結することとしました。

年末手当獲得闘争において、職場では役員会や座談会、レクや総対話集会など工夫した取り組みによって現状認識の一致をはかり、11月15日の全国統一職場集会や現場長要請行動を中心にしてFAX行動などを展開していただきました。中央本部交渉を職場から支えていただいた全組合員の皆さんに改めて感謝を申し上げます。今年末手当獲得の闘いを総括し、次なる春の闘いにむけて取り組んでいきましょう。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、年末手当交渉の最終報告とします。

以上